

# 救急医学

【単位数: 1単位, 授業13コマ, 予備5コマ(定期試験含まず)】

当該科目は医師としての臨床経験を持つ教員が担当する授業科目である。

## 1 科目責任者

渡邊栄三 教授(救急集中治療医学)

## 2 教育目標

### (1) ねらい(Ⅲ-3-b, Ⅲ-4-b, Ⅲ-5-b)

- ① コンピテンスの“医学知識と科学的探究心”的理解ができるようになるため、救急患者のプライマリ・ケア、重症患者管理方法を学び、そのことによって“プロフェッショナリズム”的涵養を図る。
- ② プライマリ・ケア領域の救急対応を行うため、全身状態とバイタルサインを確認し、緊急性の高い状況かどうかを判断し、一次救命処置を実施できる。侵襲学、集中治療医学、中毒学、蘇生学、外傷学、災害医療、病院前救護などの概略を学ぶ。循環障害、臓器不全の病因、病態、治療法を理解し、集中治療室の役割を学ぶ。

### (2) 学修目標

- ① 救急医療体制、病院前診療、災害医療を概説できる。
- ② 救急法規を概説できる。
- ③ 心肺蘇生法(BLS, ACLS)を説明できる。
- ④ 外傷初期治療と多発外傷を説明できる。
- ⑤ 救急診断学、救急処置を説明できる。
- ⑥ 救急薬品を説明できる。
- ⑦ 急性血液浄化法を説明できる。
- ⑧ 輸液療法と栄養療法を説明できる。
- ⑨ 急性循環不全の病態と治療を説明できる。
- ⑩ 重症救急患者管理を説明できる。
- ⑪ 救急検査を説明できる。
- ⑫ 広範囲熱傷の急性期治療を説明できる。
- ⑬ 環境異常と急性中毒を説明できる。
- ⑭ 侵襲と生体反応を説明できる。
- ⑮ SIRS/CARSと敗血症を説明できる。

## 3 成績の判定・評価

### (1) 総合成績の対象と算出法

	成績対象	割合	方法・コメント
定期試験	○	100%	講義内容から6割、救急医学全般から3割、英単語和訳1割の割合で出題する。救急医学全般は”標準救急医学(第5版)”の内容に準拠し、CBT問題集を参考に作問する。英単語和訳は”音声と例文でおぼえる基本医療英語1000”から出題する。 多肢選択、及び記述式問題を用いる。
態度	○	—	受講態度が不良の場合は、10%を限度に減点する。

出席: 定期試験を受験するためには欠席率が3分の1を超えてはならない。

### (2) 合格基準

評価対象の合計が60%以上(又は60点以上)で合格とする。

### (3) 再試験・再評価の方法

60%以上で合格とする。定期試験に準ずる方法で再試験を行う。

### (4) 課題（試験やレポート）へのフィードバック

定期試験で正答率の低かった問題、理解が不十分と思われた問題については、解説を一斉メールする。

## 4 教科書

書名	著者名	出版社	教科書として指定する理由
標準救急医学 第5版	日本救急医学会監修	医学書院	本教科書の内容は試験範囲とする。
音声と例文でおぼえる基本医療英語1000	笹島 茂, Chad Godfrey, 小島さつき	南雲堂	本教科書の内容は試験範囲とする。

## 5 参考図書

書名	著者名	出版社	参考図書とする理由
救急診療指針 改訂第5版	日本救急医学会監修	へるす出版	救急全般に関し必要な事項が網羅されている。
外傷初期診察ガイドライン 改訂第6版	日本外傷学会、日本救急医学会監修	へるす出版	外傷に関するABCが記載されており、わかりやすい。
熱傷治療マニュアル 改訂第2版	田中 裕編著	中外医学社	熱傷に関して詳細まで記載されている。
The ICU Book 第4版	PL Marino 著, 稻田英一ら(翻訳)	メディカル・サイエンス・インターナショナル	重症患者管理に必要な事項が病態中心に解説してある。

## 6 準備学習（予習・復習）

授業に臨むにあたり、教科書、参考図書などを用い予備知識を得ておくことが望ましい（1コマあたり0.5時間）。

## 7 授業計画

### (1) 講義の方法

基本的に大教室での知識伝達型の講義を行う。

### (2) 講義の内容

必修項目は講義で説明するが、講義のみでは救急医学の全範囲は網羅できない。

講義で説明できなかった部分は教科書に指定してある「標準救急医学」で各自自習しておくこと。